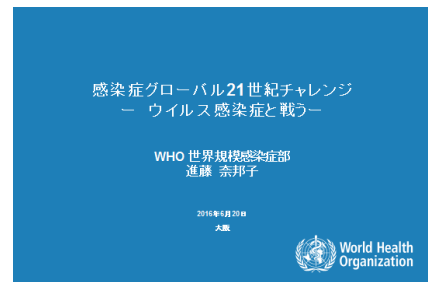


●事務局だより



「WHOでの私の仕事と体験！」と題して講演されるWHO健康安全局感染症部調査官の進藤奈邦子氏

6月20日、マイドームおおさかにおいて、世界保健機関（WHO）で感染症対策の責任者としてご活躍中の進藤奈邦子氏を迎え、「WHOでの私の仕事と体験！」と題した講演会を開催しました。

SARS、インフルエンザ、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群(MERS)など、様々な感染症の流行の際のWHOの対応や、最前線での活動状況をご自身の経験を交えながらお話いただきました。また、今回の講演会は、国際保健医療に関心のある学生の皆さんを主な対象としたものでしたので、国際機関で働く際の心構え、難しさ、キャリア形成などご自身の体験を通した率直なお話をいただきました。



日本WHO協会フォーラム 「糖尿病に負けるな」

平成28年6月21日：大阪



「糖尿病の常識・非常識」

北播磨総合医療センター 横野 浩一

北播磨総合医療センター
KITAHIRORO HOSPITAL CENTER

「糖尿病の常識・非常識」と題して講演される北播磨総合医療センター病院長の横野浩一氏

翌21日には、同じマイドームおおさかにおいて、本年の世界保健デーのテーマの「糖尿病」を取上げてフォーラムを開催しました。最初に当協会理事長の関淳一氏が「世界保健デーの意義」について話したあと、永年糖尿病と老年医学を研究されてきた、北播磨総合医療センター病院長の横野浩一氏が「糖尿病の常識・非常識」と題して講演されました。

少子化・超高齢社会において、孤立化する高齢者が長寿社会を満喫するには、健康寿命を延ばすことであり、この健康寿命を損なうのが生活習慣病であり、その中心に2型糖尿病があるときりだされ、生活習慣のうちの休養習慣についてふられながら、糖尿病・生活習慣病対策をお話しになりました。

この二つのフォーラムの講演録は、機関誌『目で見えるWHO』61号に掲載する予定です。

定時社員総会ご報告

公益社団法人日本WHO協会では、6月21日に定時社員総会を開催し、2015年度事業報告並びに決算報告が承認され、定款変更案、理事の選任案及び監事の選任案が可決されました。

また、社員総会後の理事会において、関淳一理事を理事長に選定致しました。

役員構成や事業報告等につきましては、当協会ホームページ「日本WHO協会について」から、改正定款は「諸規程」から閲覧していただけます。



マタニティセクターでの手洗いの教育

ゴンベ病院でのパイロットプロジェクト



SARAYA

病院で手の消毒100%プロジェクト

東アフリカでの院内感染をなくすために、
SARAYAは、アルコール手指消毒剤の普及を進めています。

出産時、産後の手指消毒の徹底

開発途上国では十分な設備がないまま出産するケースが未だ多くみられ、
新生児死亡率や乳児死亡率が高い国がたくさんあります。
そのためSARAYA East Africaでは出産時、産後の手指消毒の徹底を推進しています。



WHO(世界保健機関)は
医療従事者の手指衛生を徹底し院内感染予防を目指す
「**Clean Care is Safer Care**」キャンペーンを
途上国、先進国問わず世界中の医療現場で推進しています。

SARAYA サワヤ株式会社
大阪府東淀川区東長生 5-5-8
TEL 0120-40-3636 <http://www.saraya.com/>

SARAYA East Africa
Address: P.O. Box 22746, Kampala, Uganda Tel: +254-(0)112-72-72-92
Email: info@saraya-estefrica.com Web Site (Eng): <http://www1010.saraya.com/>

